第７章

ラオス人民民主共和国における道徳教育
―「社会主義的新しい人」から「よい市民」へ―

矢野　順子

要約：
「第一に教育を」のスローガンのもと、ラオス人民革命党は社会主義国家建設に必要な人材育成のため、思想・文化における革命を最重視し、教育制度の整備を最優先事項においた。そうしたなか、道徳は新政権が革命の理想に沿った「新しい人」とは何かを具体的に示し、「理想的国民」を育成していくうえで重要な科目とされた。本稿では、教育政策と道徳教科書の二つの側面の分析をおこない、1986 年の第 4 回党大会を契機に教育改革が進められ、理想とされる国民像が「社会主義的新しい人」から「よい市民」へと変化を遂げたことを明らかにした。

キーワード：ラオス、道徳教育、教育政策、理想的国民、社会主義的新しい人、よい市民

はじめに

本研究は、ラオス人民民主共和国の国家建設過程とそれに伴う社会変化を、道徳教育の側面から明らかにすることを目的とするものである。本稿ではその第一段階として、主として 2009 年 8 月の現地調査の結果得られた資料から、1975 年以降、1994 年のカリキュラム改訂までの教育政策の流れを概観し、さらに道徳教科書の内容について、簡単な分析を試みたい。

「カーン・スクサー・トン・パイ・コーン・カーオヌン *Kan Sueksa Tong Pai Kon Kao Nueng*（第一に教育を）」のスローガンのもと、新生ラオス人民民主共和国は、国家建設に必要な人材育成の必要から、教育制度の整備を最優先事項においた。社会主義国家建設のために、党は思想・文化における革命を最重視し、1975 年～78 年に出された党中央による教育に関するすべての決議には、教育を他の何よりも優先させることが書かれていた(Khammi [1994: 120])。

ラオス人民民主共和国の教育政策は、内戦期に解放区でおこなわれていた「革命教育」にその起源をたどることができる。内戦時代末期、ラオス人民革命党は「1974 年

－80 年の 7 年間における堅実な教育拡大計画についての決議」を発表し、1974 年 6 月にはサムヌアで第 2 回全解放区教育大会が開催された。そして体制変換後、1976 年にはラオス人民民主共和国として、最初の教育カリキュラムが制定され、1978 年に党中央政治局より出された「革命の新しい時代の教育に関する決議」においても、教育は引き続き「思想・文化における革命の中心的任務」と位置付けられた(Kasuang Sueksa [1987: 1])。新政権においては、思想と道徳、文化的知識、労働、体育、芸術の 5 つの分野において必要とされる資質を備えた社会主義的な「新しい人」の育成が目指され、こうしたなか、1970 年代をとおしてカリキュラムでは、一貫して道徳教育に「特別な関心」が払われた(SVS [2003:3-4])。道徳教育とはすなわち、新政権が革命の理想に沿った「新しい人民」とは何かを具体的に示し、「理想的国民」を育成していくうえで重要な教科であったのであり、したがって、道徳の教育内容の分析をとおして、ラオス人民民主共和国の国家建設、とりわけ国民形成過程の一部を、明らかにすることができると考えられる。

以上を踏まえたうえで、本稿ではラオス人民民主共和国の道徳教育について、政策と教科書内容の二つの側面における変化を分析し、1975 年以降、1994 年のカリキュラム改訂までの道徳教育の流れを明らかにしていきたい。具体的には、最初に 1975 年以前からの教育政策の歴史を概観し、次に道徳教科書について、時代ごとの内容の変化を簡単に紹介していく。そして結論として、１）内戦期、解放区で教えられていた教育内容が 1975 年以降も 10 年以上、ほとんど変化することはなくそのまま用いられていたこと、２）1986 年の第 4 回党大会を契機に新しい教育戦略が打ち出され、8 年後の 1994 年にカリキュラム改訂が実現、これにより教育内容が戦時のものから平時のものへと移行したこと、３）そしてその結果、理想とされる国民像が「社会主義的新しい人 *Khon Baep Mai Sangkhomninyom*」から「よい市民 *Phonlamueang Di*」へと転換したと思われることなどを示したい。

第 1 節　教育政策史

内戦期、パテート・ラーオにおいては、大衆に依拠した革命闘争を遂行していくため、プロパガンダと教育に力点がおかれていた。ラオス人民革命党書記長であった、カイソーン・ポムウィハーンによる 1974 年 6 月の第 2 回全解放区教育大会の報告書においても、「学校は、生徒が学習するだけの場所ではない。地方において政治、文化、科学、学問知識について宣伝し、普及させるための場所でなければならない」「教師は知識を教授するだけではなく、大衆への宣伝者でなければならない。〔教師は〕地域の革命闘争に積極的に参加しなければならない」（Kaysone [1974: 57-58]）と明記されており、教育がプロパガンダ活動に直結するものとして、位置づけられていたことが

わかる。

ラオス人民民主共和国初期の教育政策は、このような内戦期のパテート・ラーオの教育政策をそのまま継承したものであった。一党支配体制のもと、内戦時代から一貫して教育政策を指導してきたのは人民革命党であり[1]、教育は社会主義建設に必要な人材育成という実際的な要求とともに、党の宣伝活動の一部として重要な位置を占めていた。

ここではまず、内戦時代の革命教育から体制変換後の社会主義教育、そして 1994 年の新カリキュラム導入以降の方針転換という、教育政策の流れを概観し、内戦期からの連続性と変化について示していく。

1. パテート・ラーオの教育政策―教育の三大原則

2003 年に実施された教育科学研究所の「前後期中等教育カリキュラム改革についての会議」時に作成された資料によると、1972 年の「ラオス人民革命党の政治綱領」、そして第 3 次連合政府成立後、パテート・ラーオの権力掌握が間近に迫るなかで、1974

表 1　内戦時代末期からの教育をめぐる主な動き

1972 年	「ラオス人民革命党の政治綱領」
1974 年	「1974 年－80 年の 7 年間における堅実な教育拡大計画についての決議」、第二回全解放区教育大会
1976 年	革命後初のカリキュラム制定　　小・中・高で 5・3・3 の 11 年制導入
1978 年	ラオス人民革命党中央政治局「革命の新しい時代の教育に関する決議」
1986 年	第 4 回ラオス人民革命党大会、教育科学研究所設立
1987 年	「現在（1987 年）から 2000 年までの教育戦略」
1991 年	「ラオス人民民主共和国における普通教育学校建設の目的と計画」
1994 年	カリキュラム改訂、「クンソムバット」→「私たちのまわりの世界」、「公民」へ
1994 年～98 年	新カリキュラムを段階的に実施　小 1（1994-95）小 2(95-96)、小 3・中 1(96-97)4・5・中 2・3（97-98）
2007 年	教育法改正（2000 年 4 月 8 日の「教育法」から改正）
2008 年	小学 1、2 年において「クンソムバット」が復活
2009 年	小学 3、4 年において「クンソムバット」が復活

（出所）各種参考文献をもとに筆者が作成。

年に発表された「1974 年－80 年の 7 年間における堅実な教育拡大計画についての決議」

にみられる方針が革命後、1976 年のカリキュラム、78 年の「革命の新しい時代の教育に関する決議」へと継承されていった（SVS[2003:2]）。

1972 年の「ラオス人民革命党の政治綱領」に記された、「党の 11 大政策 *Sipet Nanyobai Nyai khong Phak*」の第 9 項は、「教育文化政策」に充てられており、その内容は以下のようなものであった。

> 国民 *Sat*・科学 *Vithanyasat*・大衆 *Mahason* の三大原則のもとに革命文化、教育を建設する。この仕事は、あらゆる領域において全民族の労働者人民のレベルをただちに上昇させ、抗米救国闘争に奉仕し、国家を守り、よりよく建設していくために、最優先になされなければならないものである。教育は、完璧な人間を建設することを目指すものでなければならない。道徳教育、知識教育、体育教育、芸術教育を行う。学習を実践、現実の革命闘争、労働生産と結合させなければならない。学校教育と家庭教育、すべての大衆組織の教育を連携させる。ラオ文字とラオ語をすべてのレベルと分野の教育に用いることとする(LPRP [1972: 31-32])。

「国民・科学・大衆」の三大原則は、パテート・ラーオにおいてさまざまな場面において用いられた、スローガン的なものであった[2]。ベトナムから取り入れたと思われるこの三大原則は[3]、ラオス人民民主共和国の建国以降も引き続き用いられ、2007 年の改定教育法においても見受けられる[4]。

1974 年 6 月の第 2 回全解放区教育大会の報告書で、カイソーンは教育分野において、「国民・科学・大衆」のそれぞれが指す具体的な内容を示している。それによると、国民的特徴をもつ教育とは、第一にラオス人教師による、ラオ語を教授言語とする教育であるとされた(Kaysone[1974: 39-40])。これはフランス語、英語を中等教育以上の教授言語とし、外国人教師に依存した、王国政府側の教育制度に対抗するものであり、カイソーンは外国に依存した「奴隷的・植民地的 *Baep Khoikha Lamueangkhuen*」な王国政府の教育制度の痕跡を消しさらなければならないと強調している(Kaysone [1974: 40])。

一方、科学的特徴をもつ教育とは真実の知識、科学に基づいた教育であり、科学的知識のなかでもっとも重要なものは、マルクス・レーニン主義的知識とされた(Kaysone [1974: 41])。カイソーンは、人民革命党の方針と見解はマルクス・レーニン主義をラオスの現状に適応させたものであるため、科学的特徴をもつ教育とは、すなわち党の方針や意見に適った教育であり(Kaysone [1974: 41-42])、科学的教育を建設するには、非科学的で「観念論的 *Chittaninyom*」な「古く、遅れた」旧式の教育制度を撲滅しなければならないとした(Kaysone [1974: 42])。カイソーンはさらにこのとき、観念論

的思考や迷信を撲滅しようとする姿勢が、信仰の自由を尊重する党の方針と相反するものではないことを補足している（Kaysone [1974: 42]）。

大衆的特徴を持つ教育については、大衆、とりわけ全民族の労働者人民を対象とした、大衆に依拠した教育を建設しなければならないとした(Kaysone [1974: 42])。そして男女の別なく、全民族の労働者人民に「文化 *Vatthanatham*」をもたらすこと、少数民族地域へと教育を拡大していく必要があることを述べ、大衆への教育を語るなかで、男女や諸民族の平等に言及している(Kaysone [1974: 42-43])。カイソーンはこのとき「文化」や「科学」が意味するものが、大衆にとって高度過ぎる、不可思議にうつるようなものではなく、大衆に密着したものでなければならないとし、生産活動や日常生活のなかへと科学を取り込む必要性を強調している。また「かつて文化教育は一部権力者たちの手に握られていた。現在、我々は教育文化を真の主人公の手に、労働者人民の手へと取り戻さなければならない」として、ここでも王国政府の教育制度と対比しながら、大衆の手によって、教育を建設する必要性を訴えている(Kaysone [1974: 43])。

これらをまとめると、王国政府の「奴隷的・植民地的」で「観念論的で遅れた」「一部の権力者に支配された」教育の痕跡を抹消し、科学的で大衆に依拠した、ラオ語を教授言語とする教育を建設していくことこそが「三大原則」に象徴された、パテート・ラーオの目指す革命教育の内実であったということができるだろう。王国政府においては、中等教育以上の教授言語は一部を除いて、すべてフランス語か英語で占められており、中等学校以上に進学できるのは、ごく一部のエリート層に限定されていた。パテート・ラーオは、こうした王国政府の教育制度を「奴隷的・植民地的」であると徹底的に批判し、善悪の二項対立によって、自らの教育制度の正当性を主張したのであった。こうした対比は、王国政府支配領域の学生たちへのプロパガンダにも利用され、とくに 1973 年 2 月の和平協定締結以降、各地でパテート・ラーオの指導によるデモが頻発すると、フランス語依存の旧教育制度の撤廃と「国民的」な教育の実施が、その要求項目の一つに掲げられていった(矢野[2007:19-22])。

このほか 1972 年の「政治綱領」で言及されている「道徳・知識・体育・芸術」の 4 つの教育分野や学習と実践、生産の結合といった内容は、75 年以降の教育に関する政治文書においても一貫してみられるものであり、こうした内容はまた、社会主義諸国の教育政策に広く共通するものでもあった[5]。

2.「新しい人」の育成

1974 年の報告書のなかでカイソーンは「新しい人」が備えるべき資質として、思想・道徳、知識、労働、健康、芸術教育の 5 つの分野における目標に言及している。これ

は先述の 1972 年の「政治綱領」にみられた 4 つの教育分野に「労働」が加わったものと考えられ、実際、これ以後の教育関連の文書においては通常、道徳（思想）、知識、労働、体育（健康）、芸術の 5 つの教育分野が列挙されている。カイソーンはこの 5 つの分野に関して、それぞれの目標について説明しており、このうち「思想・道徳」については、

> 革命の理想を持たなければならない。それは民族解放のために戦い、民族民主主義革命に勝利し、全国を社会主義へと進化させていくことである。真の国民意識と労働者国際精神、断固たる革命精神をもち、全身全霊を込めて革命を実行することであり、革命へと注意を払い、全民族の労働者人民と国家へ奉仕し、自己を省みることなく、革命の必要に従って、労働し、戦う準備をすることである。新体制を生きる「新しい人」とは、革命道徳を向上させ、規律を持って生活することを知り、集団の精神、諸民族との団結心、学習を好む精神を持ち、自らの後進的な生活を解決し、撲滅する決意をもたなければならない (Kaysone [1974: 48-49])。

としている。そしてその他の 4 項目に関しては、「知識」は「労働し、戦い、働くのに十分な知識をもたなければならない。必要とされる知識とは、ラオスの現状に合った知識であり、それを現実に応用する能力を持たなければならない」(Kaysone [1974: 49])、「労働」は、「労働に対する正しい見解と態度をもたなければならない。頭脳労働と肉体労働を結合させる能力を持たなければならない」(Kaysone [1974: 49])。「健康」は、「労働し、戦い、働き、国家に奉仕するためには健康でなければならない。清潔、運動、健康維持に配慮し、国家防衛の戦闘に備えるため、軍隊に関しての一般的な知識と能力を身につけなければならない」(Kaysone [1974: 49-50])、「芸術教育」では、「純粋な美を愛し、探究することを知らなければならない。労働、自然、芸術における美を鑑賞し、創作する能力を身につけなければならない。我々の国民の芸術文化における美の伝統を拡大していかなければならない」(Kaysone [1974: 50])と記されていた。

これをみると、「国家」、「革命闘争」とともに、「労働」に関して、党の求める資質を身につけることがパテート・ラーオの理想とする「新しい人」を育成していくうえで、重要な要素を占めていたことがわかる。こうした「労働」の強調は、「労働なくして人間は存在しえない、労働そのものが人間を作り出す」という、旧ソ連やかつてのモンゴル人民民主主義共和国など、社会主義諸国の教育に共通する、マルクス主義的な労働観の影響を受けたものであることは明らかであろう(Bayasgalan [2008: 41])。事実、パテート・ラーオが教育政策を実施するにあたっては、ベトナムと中国を中心

とする社会主義圏からの支援を受けており、とりわけベトナムからは 400 人以上ものベトナム人教育専門家団がパテート・ラーオの解放区へと派遣されていた（矢野[2007: 27]）。

また「学習と実践の結合」に関する、カイソーンの説明においては、「教育方法の大原則は、学習と実践を結合させることである。例えば、教育は党の政治的任務に奉仕しなければならない。革命闘争と労働生産を結合させなければならない、学校教育と家庭教育、社会教育を連携させなければならない」「学校が政治の外にあったことはない」「〔政治的に〕中立的な教育はおそらくあり得ないだろう」といった表現もみられた(Kaysone [1974: 52-53])。こうしたことから、パテート・ラーオにとって教育とは、第一に政治教育であり、党の方針を大衆に伝え、革命闘争に勝利し将来の社会主義国家建設を担う、理想とする国民へと育成していくことを、至上命令とするものであったということができる。そしてこの方針は、自らの国家を獲得した 1975 年 12 月 2 日以降、その国家建設過程のなかにしっかりと埋め込まれていくことになる。

3. 1976 年の教育カリキュラム

1976 年 8 月 29 日、新体制による初の教育カリキュラムが施行され、それまでの小・中・高で 4・2・3 の 9 年制（パテト・ラオ）ないしは 6・4・3 の 13 年制（王国政府）から、5・3・3 の 11 年制へとカリキュラムが改定された(SVS [2003: 2])[6]。新カリキュラムにおいても、思想と道徳、知識、労働、体育、芸術の 5 つの分野が教育の基礎におかれ、それぞれの内容を見てみると、例えば「思想と道徳」では「革命の理想、国家と労働者への奉仕」など(SVS [2003: 3])、前項で述べた 1974 年の報告書とほぼ同一の内容となっていた[7]。

表 2 が 1976 年の新カリキュラムで定められた、小・中・高等学校の指導教科と週当たりの時間数である。P(*Pathom*)が小学校、M(*Matthanyom*)が中学校、U(*Udom*)が高校を指し、表内の数字は各科目の 1 週あたりの時間数を表す。これを見てみると、人文系、自然科学系の科目とともに「家内工芸」、「大工と家庭科」、「製造と家庭科」といった、労働教育に関する科目、「図画」、「歌唱」などの芸術教育に関する科目や「体育」が各学年に取り入れられていることがわかる。このなかで「道徳」の科目が教えられるのは、中学 2 年までとなっているが、中学 3 年以上では「政治」が「道徳」を引き継ぐ科目として教えられており、「思想・道徳」に関連する科目が、全学年で教えられていた。

表 2　1976 年の普通教育カリキュラム表

	教科	P1	P2	P3	P4	P5	M1	M2	M3	U1	U2	U3
1	文学 *Vannakhadi*	11	6	6	3	2	2	2	2	4	4	4
2	数学 *Lek*	3	5	7	7	7	6	6	6	6	6	6
3	体育 *Kila Kanyakam*	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
4	道徳 *Khunsombat*	1	1	1	1	1	1	1				
5	図画 *Hat Taem*	1	1	1	1	1	1	1				
6	歌唱 *Hong Pheng*	1	1	1	1	1	1	1				
7	家内工芸 *Hatthakam Kanhuean*	1	1	1	1	1						
8	習字 *Hat Khian Ngam*		4	2	2	1						
9	科学一般 *Vithanyasat Thuapai*					2						
10	歴史 *Pavatsat*					1	1	1	1	1	1	1
11	文法 *Vainyakon*						2	2	2	2	2	2
12	地理 *Phumsat*						1	1	1	1	1	1
13	外国語 *Phasa Tangpathet*						3	3	3	3	3	3
14	生物 *Sivasat*						2	2	2	2	2	2
15	農業科学 *Vithanyakan Kasikam*						1	1	1	1	1	1
16	物質科学 *Vithanya Vatthu*							3	3	3	3	4
17	化学 *Khemisat*								2	2	2	2
18	政治 *Kanmueang*								2	2	2	2
19	大工、家庭科 *Visa Sangmai, Kanhuean*						1	1	1			
20	製造、家庭科 *Utsahakam, Kanhuean*									2	2	2
	週あたり総時間数	19	20	20	17	18	23	26	27	30	30	31
	教科数	7	8	8	8	10	13	14	13	13	13	13

（出所）SVS[2003:6]をもとに筆者が作成。

表 3　1964 年の小学校カリキュラム表

	教科	P1		P2	P3	P4	P5
		前期	後期				
1	文字学 *aksonsat*	18					
	読解 *hatan*		6	6	6	2	2
	暗記 *thongkhuenchai*		2	2	2	1	1
	物語 *laolueang*		1	1	1	1	1
	書き取りと文法 *khianthvaivainyakon*		4	4	4	2	2
	作文 *taenglueang*		2	2	2	2	2
	習字 *hatkhianngam*		4	4	4	1	0
2	算数 *hianlek*		5	6	6	6	6
3	歴史 *pavatsat*					1	2
4	地理 *phumisat*					1	2
5	科学 *vithanyasat*					1	2
6	図画 *taemhup*	1	1	1	1	1	1
7	工芸 *hatthakam*	1	1	1	1	1	1
8	舞踊 *fonlam*	1	1	1	1	1	1
9	体育 *hatkanyabolihan*	6	6	6	6	6	6
10	道徳 *khunsombat*	2	2	2	2	2	2
11	集団生活 *sivitluammu*	1	1	1	1	1	1
12	補習 *phoemphum*	2	2	2	2	3	3
	週あたり総時間数	32	38	39	39	33	35
	教科数	8	8	8	8	11	10

（出所）Sueksa Sunkang[1964: 5]をもとに筆者が作成。

また、筆者が入手した 1964 年の小学校カリキュラム（表 3）においても、「工芸」などの労働に関する科目、図画や舞踊などの芸術に関する科目、体育、道徳などがみられ、革命後のカリキュラムの基礎が、解放区のカリキュラムにあることがわかる[8]。

4. 1978 年「革命の新しい時代の教育に関する決議」―社会主義教育の建設―

1977 年の第 2 期ラオス人民革命党中央執行委員会第 4 回総会において、社会主義革命についての諸政策が決定され、そのなかで生産関係革命、科学・技術革命、思想・

文化革命の 3 つの革命を同時に進めることが確認された(LPRP [1978: 1])。このうち、思想・文化革命が最優先におかれ、そのなかでもっとも重要かつ優先的に取り組まなければならないものが教育とされた。体制変換後の深刻な人材不足のなか、産業関係革命や科学・技術革命を遂行していくためには、何よりも国家建設を担う「社会主義的な新しいラオス人」の早急な育成が必要であった[9]。そうしたなか、党では「教育に第一に取り組むことは、敏速な社会主義建設のための鍵である」として(LPRP [1978: 6])、以下のような基準を備えた「社会主義的な新しいラオス人」の育成が目指された。

・集団と国家の主人公であるという意識をもつ労働者
・愛国心を持ち、社会主義を愛し、純粋な国際精神をもつ
・国民の高い道徳とすばらしい文化的遺産を統合させることができる
・革命の精神をもち、困難に負けない不屈の精神をもつ
・労働を尊重し、労働に幸福を見出し、生活の根拠とする
・怠惰で、欺瞞的で他人に寄生して生活することを憎む
・環境を尊重し、守る
・国家の法律と集団生活における決まりを尊重する
・ともに新しい生活を築きあげていくために、愛情と団結心をもち、協力する
・集団の利益と個人の利益を結合させることを知る
・幸せな家庭を築くことを知る
・夫婦の間の完全な責任と愛情をもつ
・子供の養育に対して、高い責任感をもつ(LPRP [1978: 1-2])

1978 年の「革命の新しい時代の教育に関する決議」では、教育についての党の基本的見解として、１）学校はプロレタリア独裁の道具である、２）教育は党の方針、革命任務に奉仕するものでなければならない、３）教育は生産に奉仕しなければならない、４）教育は労働者大衆の義務である、５）教師は党の人間〔代表者〕であるという、5 つの項目が示された(LPRP [1978: 10-11])。このうち１）では、「教育とは思想・文化革命の最重要部分である。それゆえ、党の完全で絶対的な指導を保障するものでなければならない」(LPRP [1978: 10])と、また、５）では、「教師は新しい世代の人間を社会主義的新しい人へと育成していくことにおいて、党の代表者である」と書かれており(LPRP [1978: 11])、党の絶対的な指導のもと、教育はまさしく社会主義による国家建設という党の政治任務に奉仕するものとして、位置づけられていたということができる。

「決議」にはその他、社会主義教育を建設するにあたっての大原則として、１）学習と実践の結合、２）学習と労働生産の結合、３）社会に根差した学校、４）学校教

育のすべての活動において、共産主義の理想と革命道徳についての教育を基礎におく、などがあげられ、これらの方針がマルクス・レーニン主義と「新しい人」についての党の見解に基づくものであることが記されている(LPRP [1978: 11-15])。

1978 年の「決議」と前項であつかった 76 年の教育カリキュラムからは、自らの国家を獲得したとはいえ、いまだその権力基盤を十分に確立するには至っていなかった人民革命党が、教育の普及をとおして、全国への強力な支配体制を築いていこうとしていた意図が読み取れる。解放区という限定された地域から、一気にラオス全域を獲得した 1975 年当初、党の支配はいまだ全国には及んでおらず、旧体制の打破と党に忠実な人材の育成という内戦期からの課題は、引き続き早急な解決が迫られるものとして、国家建設の前途に立ちはだかっていた。そうしたなか、「革命教育」から「社会主義教育」、「新しい人」から「社会主義的新しい人」、そして「革命闘争への勝利」から「社会主義建設」へと、掲げられる目標が変化しても、実際の教育内容自体に大きな変化が加わることはなかったようである。このことは、76 年のカリキュラムにおいて、思想・道徳、知識、労働、体育、芸術の 5 つの教育分野が取り入れられていたことや、78 年の「決議」において学習と実践の一致、労働の尊重などの内戦期の基本方針が変化していないことからもうかがえる。実際、1978 年以降、旧ソ連の援助によって出版された小学校用の道徳教科書を見ても、その内容は解放区で用いられていた教科書の内容とほぼ同一であった。しかしながら、1986 年の第 4 回党大会以降、こうした傾向に少しずつ変化がみられるようになる。

5. 1987 年から 2000 年までの教育戦略

「チンタナカーン・マイ」（新思考）の提唱と新経済メカニズム導入に象徴される 1986 年の第 4 回ラオス人民革命党大会において、「経済拡大と人民の生活状況改善とともに、我々は教育、文化、衛生面の拡大に力を注いでいかなければならない。これは党の社会政策のなかで重要なものである」、「この先 10 年、我々は引き続き教育を思想・文化における革命の中心に据える。これまで以上に教育事業に力を入れ、適切な投資がなされなければならない」として(Kaysone [1986: 48])、教育が引き続き党の重要な政策であることが確認された。同大会で党は 5 つの戦略計画を発表し、そのひとつに「教育、役人の育成と補習、社会主義的新しい人の育成の改革計画を立てなければならない」と、教育に関する項目が盛り込まれ、教育改革の必要が明記された(Kasuang Sueksa[1987: k])。これを受けて、党中央政治局と書記局は、カイソーン書記長の直接の指導のもとに、現在から 2000 年までの教育戦略準備委員会設置の決議を公布した(Kasuang Sueksa [1987: k])。そして、 1987 年 3 月 6 日から 9 日にかけて、第 4 期ラオス人民革命党中央執行委員会第 4 回総会が内閣と共同で開催され、あらか

じめ関係各部署及び各地域に草案を送り、意見聴取を行っていた「現在から 2000 年までの教育戦略案」が協議され、最終的に文書のかたちで合意がなされた(Kasuang Sueksa[1987: k-kh])。

このときの文書『現在から 2000 年までの教育戦略』では、第一部において 1975 年以降の教育政策の総括がなされ、労働者人民、少数民族に対する識字達成、文化補習教育の前進、学校建設などが、主な達成点として挙げられた(Kasuang Sueksa [1987: 2-4])。しかし一方で、政治局決議や第 4 回党大会の決議で示された到達目標に対して、例えば各学習分野の拡大が不安定で、計画性を欠いている点、山岳地域への教育拡大が進んでいない点、字を覚えた後に、再び非識字者に戻るものが多数存在すること、学習内容が現状にあっておらず、党の方針に完全にしたがっていないことがあるなどの問題点が指摘された(Kasuang Sueksa[1987: 4-5])。そしてこの理由として、教育関連の行政各部署において、教育が国家の革命事業において大きな意味をもつこと、社会主義的新しい人の育成における、教育の重要性が十分に理解されていないこと、さらに教育政策の運営面における問題として、指導力が弱く、党の方針や見解が、各分野や地方の政策となりえていないことなどが指摘されていた(Kasuang Sueksa [1987: 5-6])。

第二部「現在から 2000 年までの教育戦略指針」では、各学習分野の堅実な拡大、教育の質的向上、ラオスの社会主義教育制度の着実な完成、教育を国家の経済拡大の要求と条件に合致させること、革命の二つの戦略（国防と社会主義建設）への奉仕という、第 4 回党大会決議とこれまでの教育に関する党の見解に言及したうえで、5 つの教育戦略目標が記されていた(Kasuang Sueksa [1987: 9-12])。それらは要約すると、以下のようなものであった。

１）役人、各民族の人民に対する文化補習学習の組織と振興
２）とくに工場、学校、病院、集団経済地区における保育園、幼稚園の整備。普通教育の改革、普通学校を全国と各地域の社会経済制度に密着したものとする。社会主義的新しい労働者育成における質の向上。
３）職業訓練教育、大学の改革
４）山岳地域での教育拡大
５）教育関係の役人、教師の育成と補習

またこの新しい教育戦略について、文書の最後には 1987 年 3 月 9 日の会議における、次のようなカイソーンの言葉が掲載されていた。

〔第 4 回党大会が〕我々の国家の革命の新しい拡大の起点となった。今回の

党大会では経済社会開発の基本的方針と任務が決定されたが、このなかには教育に関する方針と目標も含まれていた。これらのことは、我々に思考*Chintanakan*、思索、問題の見方、教育事業の進め方において新しい変革*Pianpaeng Mai*を迫るものである。それゆえ、我々はそのような教育の方針と目標を教育戦略としなければならない。正しい教育戦略をおいたとき初めて、経済社会発展のすべての任務をよく実施することができるのである。教育に関して思考面の新しい変革とは、教育を現在の我々の国家の社会・経済状況に合致したものとすることである。〔中略〕教育に関する思考面の新しい変革は、革命の方針と任務、教育についての党の方針と見解、現実の経済、社会における能力、そして教育分野自体の能力にもとづくものでなければならない(Kasuang Sueksa [1987: 55-56])。

先に挙げた 5 つの教育目標などから、「現在から 2000 年までの教育戦略」においても、社会主義教育制度の建設や労働の強調など、基本的な政策方針において、1978 年までのものとの間に大きな差異を見出すのは難しい。しかしながら、カイソーンはここでたしかに教育における、思考面の新しい変革、すなわち教育面における「チンタナカーン・マイ」の必要性を主張しており、変革が達成されたときにはじめて、経済社会の発展にかかわるすべての任務を実施することができるのだとする。そしてこうした動きを受けて、1986 年に教育省の傘下に設置された教育科学研究所の主導のもと、カリキュラム改革に向けた具体的な動きが始動することになる。

6. 1994 年のカリキュラム

１）前項でみた 1987 年から 2000 年までの教育戦略、２）1991 年のラオス人民民主共和国憲法、３)1991 年のラオス人民民主共和国における普通学校建設の目的と計画、４）1993 年の人民革命党中央政治局による「人材資源開発についての決議」などを経て、1994 年に新カリキュラムが制定された。そしてこのうち、1993 年の「人材資源開発についての決議」がもっとも多く、新カリキュラムの内容に反映されていたという(SVS [2003: 25-26])[10]。このときのカリキュラム改革にあたっては、小・中学校は世界銀行からの援助を受け、高校については政府の資金が提供された(Saengngoen [2007: 3])。

新カリキュラムにおいても、1972 年の政治綱領、74 年の報告書、76 年のカリキュラムと同様、道徳教育・知識教育、労働教育・体育（肉体）教育、芸術教育の 5 つの分野において、生徒たちを発展させていくことが目標として掲げられていた。しかしながら例えば、小学校用の新カリキュラムに掲載された各項目の説明を見ていくと、

1974 年の報告書における内容と、いくつかの違いがみられる。新しい小学校カリキュラムでは、5 つの分野について、それぞれを知識・能力・態度の 3 つに区切ったうえで、各項目について以下のような目標が書かれていた。

a．道徳教育
a-1 知識：次の事柄についての基礎的な知識を身につける
・国民、国家、国民の美しき遺産
・国家の憲法や法律、地域の美しい伝統
・学校や児童組織の規則
・道徳の規準、生徒の礼儀作法、指導者の教え
・家族、集団、友人とのコミュニケーション
a-2　能力
・国歌を歌い、指導者の教えにしたがって行動できる
・学校の規則にしたがって行動することができる
・家族の生活習慣に正しく行動することができる
・交通規則にしたがって行動できる
・友人を助けることができる
・こんにちは、ありがとう、すみません、さようならとあいさつする
a-3　態度
・故郷とその環境を愛する
・指導者、指導員、両親、年長者、障害を負った兵士、国家のために犠牲となったものを尊敬する
・家族と友人のすべての人を愛する
・一生懸命に勉強し、家庭と学校における労働をする

b．　知識教育
b-1　知識：次の事柄についての基礎的な知識を身につける
・ラオス語と 4 種の計算（足し算、引き算、掛け算、割り算）
・自然現象、社会現象のいくつか、それらの人類、動物、植物に対する影響
・地理、歴史、市民の義務
・人間の体、個人と集団の清潔
b-2　能力
・ラオス語を正しく使う
・4 種の計算を解き、暗算をし、計量単位を変えることができる
・いくつかの自然現象や日常における現象のいくつかを観察し、説明することができ

る
・簡単な勉強道具、実験用具を使うことができる
b-3　態度
・規律を持ち、一生懸命勉強する
・さまざまな科目の学習を好み、知識を探求する

c．労働教育
c-1　知識：次の事柄についての基礎的な知識を身につける
・労働の価値：地域の農業、畜産、工芸
・工芸品の生産、縫い、編み、刺繍、遊び道具の生産における各工程
・生産道具の使用法、各資材を使うことの有益性
・労働時の安全と清潔の規則
c-2　能力
・神経と筋肉の動きを滑らかに連結させる
・いくつかの農作業、畜産作業、工芸ができる
・自分自身と家族に奉仕することができる
・友人と労働することができる
c-3　態度
・労働における規律、団結心を持ち、協力し、助け合う
・勤勉で責任感をもち、節約する
・労働者と労働結果を尊敬する

d．　肉体（体育）教育
d-1　知識：次の事柄についての基礎的な知識を身につける
・整列規則、走る、遊ぶ、歩く、肉体鍛錬と健康維持
・肉体運動、掃除、環境の有益性
・中毒物や病気の悪効果
d-2　能力
・整列方法、歩き方、走り方にしたがって正しく行動する
・リズムに合わせて体操する
・筋肉、神経、視線の動きをすばやく連動させる
・中毒物には手を出さない
d-3　態度
・スポーツや体操を好む
・競争において負けることを知る

・集団精神、友情をもつ
・友人に中毒物を避けるよう促す

e.　芸術教育
e-1　知識：次の事柄についての基礎的な知識を身につける
・図画、楽器、歌、詩、舞踊、民謡
・生活習慣
e-2　能力
・歌、民謡、踊り、物語、絵を描く、造形、家の装飾ができる
・自然の美しさ、人間、故郷の美しさを描写することができる
・教室を清潔にすることができる
・美しく字を書くことができる
e-3　態度
・歌や踊り、物語、絵をかくこと、造形、遊び道具、装飾を好む
・自然、人間、故郷の美しさを好む
・公共の場所、歴史的な場所、崇拝するべき場所を守る
・礼儀正しい態度をとり、丁寧な言葉遣いをする(SVS [1998: 2-5])

これらを、先にみた 1974 年の「決議」に示された 5 項目の内容と比較すると、「革命」や「戦い」、「新しい人」といった表現が、もはや見られなくなっていることに気づく。その代わりに、例えば「道徳教育」においては、国家の憲法や法律の知識を身につけることが盛り込まれ、このことは「社会主義的新しい人」の育成から、「よい市民」の育成へと、人材育成の目標がシフトしていっていることを示すものといえる[11]。「体育教育」に関しても、兵士となって国を守るため体を鍛えるという記述は消え去り、戦時の教育政策から平時の教育政策へと、教育内容が移行していった様子がうかがえる。そしてこのことは道徳教科書の内容を比較することで、さらに鮮明なものとなる。

第 2 節　道徳教科書

1994 年のカリキュラム改訂における、主要な改革のひとつに、内戦時代からの科目名であった「道徳（クンソムバット）」がなくなり、小学校は「私たちのまわりの世界 *Lok Omtua Hao*」、中・高校では「公民 *Sueksa Phonlamueang*」と、教科名が変化したことである。これに伴って、教科書の改訂が行われ、その内容は従来の「クンソムバット」とは大いに異なるものとなっていた。

表 4　1994 年の小学校カリキュラム表

	教科	P1	P2	P3	P4	P5
1	ラオ語	12	10	10	8	8
2	数学	3	4	5	6	6
3	私たちのまわりの世界	2	2	2	3	3
4	芸術	2	2	2	2	2
5	工芸	1	2	2	2	2
6	体育	2	2	2	2	2
	週当たり総時間数	22	22	22	23	23
7	課外活動	6	6	6	6	6

（出所）SVS [1998: 6]をもとに筆者が作成。

表 5　1994 年中学校カリキュラム表[12]

	教科	M1	M2	M3
1	ラオ語・文学	6	5	4
2	数学	6	6	6
3	自然科学	3	5	7
4	社会科学	3	5	5
5	技術	2	2	2
6	体育	2	2	2
7	芸術	2	2	0
8	外国語（仏語・英語）	3	3	3
	週当たり総時間数	27	30	29
9	課外活動	6	6	6

（注）「公民」は「社会科学」の中に含まれる。
（出所）Onekeo [2008: 10])をもとに筆者が作成。

1. 内戦時代～1994 年のカリキュラム改正まで

内戦期、ラオス愛国戦線中央教育局により 1969 年以降、小学 1 年から中学 2 年までの道徳教科書が相次いで出版された。これらの教科書はベトナムの教科書を手本に、ラオスの現状に合うように改変を加えたうえで、編纂されたものであった[13]。ラオス人民民主共和国建国以降も、小学校に関しては内戦期の教科書がそのまま用いられ、1978

年に旧ソ連の援助により、モスクワで出版されたのが、革命後初の道徳教科書となった[14]。中学に関しては、1976 年から 77 年にかけて、1 年と 2 年の教科書がラオスで出版されているが、その内容は内戦の終結とラオス人民民主共和国の建国という歴史的事実を反映させるための微少な変更が加えられている以外、内戦期の教科書と同一であった。旧ソ連版の小学校教科書も、新カリキュラムによって 1 年増えた学年に合わせるため、若干の調整が加えられたのみで[15]、内容は内戦期のものとほぼ同じであった。その後、1980 年代にも小学校教科書が出版されているが[16]、筆者の入手した 4，5 年の教科書を 79 年の旧ソ連版と比較したところ、内容は全く同じであった。したがって、教科書から判断する限り、1994 年のカリキュラムまでは、「道徳」の教育内容は内戦期のものがほとんど改変を加えられることなく、教えられていたということができるだろう。

表 6 は、1979 年の旧ソ連版『道徳小学 4 年』の目次である。これは 1970 年版の『道徳小学 4 年と内容・構成ともにほぼ同一で、表紙のイラストも非常によく似たものが使われていた（写真 1）。

写真 1

左が 1979 年版、右が 1972 年版の道徳教科書。

表 6　1979 年ソ連版『道徳小学 4 年』

課	タイトル
1	勇敢に友人の命を助ける *kahan ku ao sivit khong mukhu*「ナーン・トンルアン」
2	行儀良く、良く勉強し、良く労働する *malanyat di hamhian di lae ok haeng ngan di*「競い合いの総括式で」
3	先生を尊敬し、言うことを聞く *khaolop lae fang khamson khong khu*「シーカイ君と先生」
4	まじめに学校に行く *man pai honghian*「サボる」
5	難問に遭遇してもあきらめない *phop khwam nyunnyak ko bo thoi*「がんばってもっと考える」
6	完全に分かるよう、実践してみる *het phak pativat hai khop thuan*「パックカートを植える」
7	労働時の危険に注意する *lavang antalai vela ok haeng ngan*「しっかり嵌っていない鋤」
8	助け合って労働をする *soiluea haeng ngan kan*「労働力の足りない家族を助ける」
9	集団のものを大事にする *haksa khueang suan luam*「落ちた米袋」
10	本を長く大事に使う *haksa puem hai don*「ブワサー君の教科書」
11	小さな子を愛し、助ける *hakphaeng lae soiluea phunoi*「一つの美しき善き例」
12	軍隊を愛し、助ける *hakphaeng lae soiluea thahan*「児童が防空軍を訪問する」
13	労働者を愛し、感謝する *hakphaeng lae hu bunkhun kammakon*「織物工場を訪問する」
14	労働人民を愛し、感謝する *hakphaeng lae hu bunkhun pasason phu ok haeng ngan*「田植えをしたのは誰か」
15	地域行政組織に感謝する *hu bunkhun ongkan pokkhong thongthin*「援助して学校を建設する」
16	ラオス人民革命党を愛し、感謝する *hakphaeng lae hu bunkhun phak pasason pativat lao*「ラーオ・トゥンの村の新しい顔
17	指導者を愛し、感謝する *hakphaeng lae hu bunkhun phunam*「スパーヌウォンの脱獄」
18	諸民族の団結 *samakkhi sonsat*「共に戦う」

19	世界の児童との団結 *samakkhi kap nyuvason sakon*「6 月 1 日」
20	全体の清潔に気を配る *haksa anamai suan luam*「所有者の精神」
21	健康を守る *haksa sukhaphap*「生水を飲まない」
22	来客に礼儀正しく *mi khwam suphap to khaek*「学校への訪問客を迎える」
23	心から、優しく批判する。満足して受け入れる *chingchai lae onnyon tamni phochai hapao*「サマックとソム」
24	社会奉仕の準備をする *kiamphom hetviakngan sangkhom*「救国米を移動させる」
25	地方と政府の秘密を守る *haksa khwamlap khong thongthin lae khong lat*「僕は知らない」
26	与えられた集団の仕事を完全にやり遂げる *het nathi suan luam mopmai hai lon*「成し遂げられたひとつの仕事」

（出所）KSKT[1979a]をもとに筆者が作成。

変更が見られるのは、例えば第 16 課「ラオス愛国戦線を愛し、感謝する」のタイトルが、79 年版では「ラオス人民革命党を愛し、感謝する」に変わっているなどごくわずかであった。この第 16 課の読解の内容は、ラオ・トゥンの村を訪ねた主人公が[17]、夜に囲炉裏の前で村の老人から話を聞き、アメリカ帝国主義者 *chakkaphat* の支配下に置かれていた時代、村人は衣服もなく、食べ物にも事欠き、苦しい生活を強いられていたのに対し、現在ではラオス愛国戦線（79 年版ではラオス人民革命党）のおかげで、十分な衣服や薬、学校まで建てられたと、愛国戦線の恩恵により、村の生活環境が大いに改善されたということが語られる。そして同じ課の「学習」の項目では、

> ラオス愛国戦線とは、我々に独立と民主主義をもたらすため、侵略者であるアメリカ帝国主義者とその傀儡を追放する戦いにおける、我々の指導者である。あなたたちが勉強できるのも、ラオス愛国戦線がいるからです。したがって、私たちはラオス愛国戦線に感謝し、愛さなければなりません。(NLHS [1970b:55])

と書かれ、アメリカ帝国主義者とその傀儡（王国政府）を悪、ラオス愛国戦線を善とする二項対立により、生徒たちにラオス愛国戦線の素晴らしさを理解させるような内容となっていた。1979 年版においても下線部「ラオス愛国戦線」が「ラオス人民革命党」に変更された以外、内容は全く同じであった。このほか第 1 課「勇敢に友人の命

を助ける―ナーン・トンルアン」は、少女トンルアンがアメリカ軍の爆撃の中で友人の命を救う話(KSKT [1979a: 1-3])、第 18 課「諸民族の団結―ともに戦う―」では黒タイ族の青年兵士がモン族を守るため敵の銃弾に倒れるという内容となっており(KSKT [1979a: 57-60])、戦時下での生活が鮮明に反映された内容が、1975 年以降も引き続き教えられていた。

以下の 1971 年版の中学 2 年の教科書(A)と、1977 年版の中学 2 年の教科書(B)の第 1 課の比較からは、新政府が内戦期の教育内容をそのまま持ち込まざるを得なかった理由の一端をうかがい知ることができる。

> A 現在、我々人民は全国でラオス愛国戦線の指導のもと、困難に満ちた革命を遂行している。この勇敢な闘争は、ラオス国家を平和、独立、民主主義、統一、繁栄した国家へと建設していくために、アメリカとその傀儡をラオスの領土から追放するためのものである。
>
> 民族を解放し、勝利へ導きたいならば、革命の道徳を身に付けた革命の人をもたなければならない。それゆえ、我々全員が革命の道徳を鍛えなければならない(NLHS[1971c: 6])。

> B 現在、我々人民は全国で、ラオス人民革命党の指導のもと、旧社会の残骸と痕跡を捨て去るため、困難と混乱に満ちた新体制の建設を遂行している。現在、アメリカ帝国主義者とその傀儡は、ラオスの領土から追放されてしまったけれど、やつらはまだ平和を壊そうとするたくらみを捨てず、我々の美しい新体制に抵抗している。
>
> 文明的で繁栄した新体制を建設したければ、革命の道徳を身に付けた市民をもたなければならない。それゆえ、我々は革命の道徳をしっかりと鍛えていかなければならない(KSKT[1977: 1])。

A は革命闘争の勝利のために、B では新体制の建設のために、革命の道徳を身につけなければならないということが述べられている[18]。このとき B では、内戦の終了とともに、アメリカとその傀儡が追放されてもなお、彼らはラオス国内の平和を乱し、新体制への抵抗を試みているとして、新体制の成立がただちに完全な戦闘終結を意味するものではなかった、との見解が示されている。小学校の段階から戦時下での生活、アメリカや王国政府への敵意を植え込むような内容が 75 年以降も教えられ続けた理由のひとつには、政権奪取後も新政権による国家建設の前途には、多数の不安要素が存在しており、党に忠実な人材の育成が何よりも必要とされていたということの表れであったといえよう。そしてこのことは前節でみた教育政策の流れとも合致するもので

あった。しかしながらそうしたなか、教育政策と同様、1994 年の新カリキュラムは道徳の教育内容に革新的な変化を及ぼすこととなった。それでは次に、1994 年のカリキュラム改正後に編纂された教科書の特徴と傾向について簡単に見ていくこととする。

2. 1994 年以降の教科書

1994 年のカリキュラム改訂を受けて、小・中・高校用の「私たちのまわりの世界」、「公民」の教科書が順次編纂されていった。中学校の「公民」は歴史・地理・公民の 3 教科から成る「社会科学 *Vithanyasat Sangkhom*」という科目の一部に組み込まれ、教科書も歴史・地理・公民の 3 教科で 1 冊の教科書が使われていた[19]。

「私たちのまわりの世界」とは、自然の生物・非生物が引き起こす様々な現象や進化に関する知識、社会生活における知識を集めたものであり、カリキュラムには以下の 6 つが到達目標として挙げられていた(SVS [1998: 51])。

１）社会と自然についての基礎的な知識を身につける、知的好奇心を常に持つようにさせる。
２）科学運動における能力、簡単な科学技術分野の知識を日常生活に応用できる能力を身につける。
３）健康衛生のための正しい行動ができる
４）社会で共存していくうえでの規則を理解する。責任義務、自身と他人の領域を理解する。
５）人間とさまざまな環境の間の関係を理解する。環境に適応できる能力を身につける。
６）愛国心、独立を愛し、ラオスの祖先の美しい遺産を大切にする(SVS [1998: 51])。

小学 4 年生の教科書は、1 私たちの体、2 植物、3 動物、4 私たちラオスの地理環境、5 天気、6 土と石、7 環境、8 ラオスの歴史状況、9 ラオスの文化と社会、10 法律と人口学、11 天文学の構成、12 熱、13 光、14 音、の 14 分野からなり、それぞれがさらに細かく、各課に分かれていた（表 7)。日本の小学校であれば 1〜3、5〜7、11〜14 は理科、4、8、9、10、は社会に分類されるようなものであり、1994 年の小学校カリキュラムに理科と社会は含まれていないことから、「私たちのまわりの世界」がラオスにおいてこれらの科目の代わりとなっていたということができるだろう。「私たちのまわりの世界」では、以前の「道徳（クンソムバット)」にみられたような、戦時下での生活や社会主義的な労働の価値を説くような課はもはや見られなくなっている。

表 7　1997 年版「私たちのまわりの世界」小学 4 年

私たちの体	1 目、2 耳、3 鼻、4 口、5 皮膚、6 マラリヤ、7 デング熱、8 寄生虫、9 結膜炎、10 皮膚病、11 中毒になるもの、12 中毒になるものの害、13 エイズ
植物	14 葉緑素、15～18 植物に必要なもの（日光、水、空気、様々な養分）
動物	19 動物の食事、20 食事と動物の共存、21 ある動物がはっきり見えない理由、22 動物の狩猟と餌
私たちラオスの地理環境	23 地図と縮尺、24 地図について、25 ラオス国家の位置と国土、26 人口とラオス国家の統治
天気	27 温度計、28 空気の特徴、29 空気の利益と成分、30 風の発生、31 公害としての空気
土と石	32 地層、33 土の種類、34 土の重要性、35 石
環境	36 環境
ラオスの歴史状況	37 古代人類の誕生と生活 38 古代のラオスとラオス国民の文化遺産 39 ランサン王国、統一と独立の時代 40 ランサン王国、国家建設の時代 41 ランサン王国、絶頂期 42 ランサン王国、衰退と没落の時代 43 ランサン王国、独立喪失の時代
ラオスの文化と社会	44 家庭と社会における礼儀作法、45 ラオスの美しき文化と伝統風習
法律と人口学	46 法律の基礎知識、47 人口学の基礎知識
天文学の構成	48 垂直と並行、49 方角を探す
熱	50 熱による物質の変形、51 熱による物質の拡大、52 熱の動き
光	53 光の発生するところ 54 光の速さと反射 55 光の屈折
音	56 音の発生

（SVS［1997a］）をもとに筆者が作成。

一方、中学 1 年「公民」では、「公民の科目は、国のよい市民 *Phonlamueang Di khong Sat* としての人間の生活様式についての知識を学習する科目である」と説明されていた（SVS［1996a：154］）。その構成を見てみると、1 ラオス国民 *Sat Lao*、2 ラオスの

文化 *Vatthanatham*、3 地方行政制度 *Labop Kanpokkhong Thongthin*、4 よい市民としての生徒の義務 *Nathi khong Nakhian nai Thana Pen Phonlamueang Di* の 4 部門から成っており、中学においても従来までの内容とは大きく異なり、国家や社会のなかで生活していくうえで必要な知識を学習する科目としての色彩が濃いものとなっている（SVS[1996a]）。

もっとも、高校（後期中等学校）の「公民」では、マルクス・レーニン主義哲学の学習が中心となっていることから、小・中学校における教育内容の変化が、ただちにラオスにおける社会主義教育の終焉を意味するものである、ということはできない。しかしながら、義務教育である初等教育において、道徳の教育内容が革新的に変化したことは、1994 年前後を境に国家の育成しようとする「理想的国民」像が、「社会主義的新しい人」から「よい市民」へとシフトしたことを明確に示すものであるということができるだろう。このことはまた、1991 年憲法、そして 2003 年の改正憲法の教育に関する条項において「社会主義的新しい人」ではなく「よい市民」の育成という文言が盛り込まれていることからも見て取れる[20]。

おわりに

以上がこれまでの研究から明らかとなった、1975 年から 1994 年のカリキュラム改革までの、ラオス人民民主共和国における道徳教育を中心とした、教育政策の流れである。1975 年の建国当初、ラオス人民革命党の支配はいまだ全国には到達しておらず、教育をとおして党に忠実な人材「社会主義的新しい人」を育成していくことは、最優先に取り組まなければならない課題とされた。そのため、教育内容に関しても内戦期と同様、党への感謝と奉仕、それに対抗する形でのアメリカと旧王国政府への痛烈な批判、労働に対する社会主義的な価値観の強調といった、戦時と変わらぬ内容がそのまま教えられていた。

教育政策におけるこのような傾向に、変化の契機を与えることとなったのが、1986 年の第 4 回党大会における教育改革の提唱であった。もっとも党大会の時点で意図されたのは、ただちに教育内容に大幅な変化をもたらすものというよりも、従来の欠点を補い、教育に対する党の指導力を強化していくことや、学校建設の推進といった意味合いのものではあった。しかし同年、教育科学研究所が設置され、翌年には「現在から 2000 年までの教育戦略」を発表、そして 1994 年に発表されたカリキュラムとそれにともなって改訂された教科書の内容は、明らかにそれまでの教育内容とは一線を画すものとなっていた。そうしたなか、教育をとおして形成すべき「理想的国民」に求められる資質も「社会主義的新しい人」から、「よい市民」へと変化していったのであった。こうした変化の背景には、当然ながら 1986 年以降、1994 年のカリキュラム

改訂までの 8 年間におけるさまざまな政治的・社会的事情があることが考えられるが、残念ながら今回の調査ではその詳細を明らかにすることはできなかった。そのため来年度に関しては、今年度の続きとして 1994 年以降、現在までの道徳教育について明らかにするのと同時に、1986 年から 1994 年までの変化の背後要因について追及することも研究課題の一つとしていきたい。また、地方における 1975 年以降の道徳教育実施状況、さらにベトナムの教育政策との関連や影響についても来年度、合わせて検討していく予定である。

---

[1] ラオス人民党は 1972 年に人民革命党に改称された。

[2] たとえばウタマ・チュラマニー(Utama Chulamani)が 1969 年にスパーヌウォンの還暦を記念して出版された文集のなかで、1950 年にスパーヌウォンがラオ語の正書法会議のなかで述べた言葉として、「ラオ語に国民的・大衆的・科学的特徴をもたせる」という表現を引用している(Utama [1969: 22])。

[3] 1948 年にベトナムで第 2 回全国文化会議の折、チュオン・チンがおこなった「マルクス主義とベトナム文化」という講演のなかで、ベトナムの新しい文化の方向を「民族化・科学科・大衆化」としたものがみられる（栗原[1988: 4]）。

[4] 改定教育法第 5 条「教育原則 *Lakkan khong Kansueksa*」第 1 項に「教育は社会主義の方針に従って行われなければならない。国民的、大衆的、科学的、現代的 *Thansamai* 特徴をもつものでなければならない」と記されている(Kasuang Sueksathikan[2008: 4])。

[5] 例えばモンゴルでは人民民主共和国時代の 1962 年、旧ソ連の法律を模倣した「学校と現実生活の関係強化と国民教育制度の将来の発展に関する法律」が採択され、そこでは教育、生活、生産関係の強化、青年の労働的、道徳的、美的、肉体的教育の改善が課題とされていた(Bayasgalan [2008: 39])。

[6] 先述の教育科学研究所の会議資料ではパテート・ラーオの教育制度が 10 年制となっているが、9 年の誤りであると思われる。

[7] 筆者は、カリキュラムの原本を入手することはできなかったが、先述の教育科学研究所の 2003 年の会議資料に詳細が書かれていたため(SVS[2003])、それを参照した。

[8] パテート・ラーオでは 1967 年に短縮カリキュラムが採用されるまで、小学校は 5 年制であった。

[9] 例えば、教育制度の整備を急ぐ理由として、「決議」では自然経済的小規模生産から社会主義的大量生産への移行にあたり、労働者、とくに農民の文化レベルの低さが社会主義建設の障害となっていることに言及している(LPRP [1978: 6])。

[10] 残念ながら筆者はまだこの資料を入手できていない。来年度の現地調査で入手を試みる予定である。

[11] 実際、1991 年憲法の第 2 章第 19 条に、「国家は新しい世代をよい市民へと育てることとともに、教育開発に努める」という表現が見られる。

[12] オンケオは学年を小学校からの連続で数えて m4,5,6 としているが、中学教科書では 1，2，3 年と表記されていることから、ここでは 1〜3 に改めた。

[13] 教育科学研究所道徳担当、ブンネェン先生とセンガン先生のご教示による。

[14] 1978 年に準備学級と小学 1 年、79 年に小学 4，5 年の教科書が出版された。2，3 年に関しては残念ながら今回の調査では入手することができなかった。

[15] 内容のほか、例えば小学 1 年教科書が準備学級用に、小学 2 年教科書が小学 1 年用になどの調整がおこなわれた。

[16] これらの教科書に出版年が記載されていないが、教育科学研究所の先生方によると 1980 年代に出版されたものであるということであった。

[17] ラオ・トゥン（中高地ラオ）とはラオ・ルム（低地ラオ）、ラオ・スーン（高地ラオ）とともにラオスの民族を居住地別に三分割した際の呼称で、モン・クメール系の人々が当てはまる。現在、公式には三分割による呼称は廃止されているが、民間レベルでの使用は依然として見られる。

[18] 引用箇所以下の内容は全く同じであり、B が A に改変を加えるかたちで書かれたものであることは明らかである。

[19] 教師たちはときに 1 冊の教科書からそれぞれ自分の担当する部分を引きちぎって教えていたということである。

[20] 1991 年憲法については注 11 を参照のこと。2003 年憲法では第 2 章第 22 条に「ラオス国民が革命精神、

知識・技能を身につけたよい市民となるように」という表現が見られる。

参考文献

＜日本語文献＞

Bayasgalan Oyuntsetseg [2008]「モンゴル人民共和国における道徳教育の展開―1921年～1980年代末までの動向を中心に」(『教育学雑誌』第43号）35－51ページ。

栗原浩英　[1988]「ベトナム労働党の文芸政策転換過程（1956～58年）―社会主義化の中の作家・知識人」(『アジア・アフリカ言語文化研究』第36号）1－26ページ。

出口真弓　[2003]「ベトナムの道徳教育カリキュラムの分析」(『広島大学大学院教育学研究科紀要』第三部第52号）115－122ページ。

矢野順子　[2007]「「ラオス国民」の形成と「武器」としてのラーオ語―パテート・ラーオの教育政策とプロパガンダを中心として」(『東南アジア　歴史と文化』第36号）3－35ページ。

＜英語文献＞

Langer, Paul F. [1971] *Education in the Communist Zone of Laos*, Santa Monica: The Rand Corporation.

Onekeo Nuannnavong [2008] *Comparative Study on Korean and Lao Curricula For Secondary Education*, Seoul.

Stuart-Fox, Martin [1997] *A History of Laos*, Cambridge: Cambridge University Press.

――― [2001] *Historical Dictionary of Laos*, 2nd ed., Lanham, Maryland and London: Scarecrow Press, Inc.

＜ラオ語文献＞

Kasuang Sueksa [1987] *Nyutthasat Kansueksa samlap Lainya tae ni thoeng Pi 2000* (現在から2000年までの教育戦略)Vientiane.

Kasuang Sueksa lae Kila [1991] *Chutmai lae Phaenkan Kosang Honghian Saman Sueksa Nai SPP Lao* （ラオス人民民主共和国における普通教育学校建設の目的と計画）Viantiane.

Kasuang Sueksathikan [2008] *Phaen Nyutthasat Kanpatihup Labop Kansueksa haeng Sat 2006-2015*（国民教育制度改革戦略計画2006－2015年）Vientiane.

Kaysone Phomvihane [1974] *Sapsuem Naeo Thang Kan Sueksa khong Phak, Thang Na Khanyai Phalakit Kan Sueksa* (党の教育指針通達、教育事業の精力的

拡大) Sam Neua: Hong Phim Mittaphap Lao-Chin khong Sunkang Naeo Lao Hak Sat.

———[1979] *Detdiao Namao Kan Sueksa Pai Kong Kao Nueng* （第一に教育を） Vientiane: Hong Phim Kasuang Sueksa, Kila lae Thammakan.

———[1986] *Bot Laingan Kanmueang khong Khanabolihan Ngan Sunkang Phak Pasason Pativat Lao to Kongpasum Nyai Khangthi 4 khong Phak*（第4回党大会ラオス人民革命党中央執行委員会政治報告書） Vientiane.

Khammi Buasaengthong [1994] “Kan Sueksa Lainya Vanthi 2-12-1975 thoeng 1985” （1975年12月2日から1985年までの教育）in *Pavat Kan Sueksa Lao*, Vientiane: Phanaek Sueksasat-Chitvithanya Mahavithanyalai Sangkhue Viang Chan, pp.101-118.

Lao People's Revolutionary Party (LPRP)[1972] *Khongkan Kan Mueang*（政治綱領）

———[1978] *Mati khong Kom Kanmueang Sunkang Phak Pasason Pativat Lao Kiaokap Viakngan Sueksa Nai Lainya Mai khong Kan Pativat*（革命の新しい時代における教育についてのラオス人民革命党中央政治局の決議） Vientiane: Hong Phim Kasuang Sueksa, Kila lae Thammakan.

Saenngoen Vainyakon [2007] *Bot Laingan Sonthana Laekpian Dan Vithanyasat: Lakkan lae Boning Nai Kan Sang Laksut Visa Khunsombat (San Pathom) lae Visa Suksa Phonlamueang (San Matthanyom Tonton lae Pai)*（学術的意見交換のためのレポート：小・前後期中等学校の道徳カリキュラム編纂における原則と根拠）

Sathaban Khonkhva Vithanyasat Kan Sueksa (SVS) [1998] *Laksut San Phathom Saman Sueksa*（普通初等学級カリキュラム） Vientiane: Kasuang Sueksathikan.

———[2003] *Ekasan samlap Kong Pasum Sammana Kiaokap Kan Patihup Laksut San Matthanyom Ton Pai*（前・後期中等教育カリキュラム改革についての会議資料)Vientiane: Kasuang Sueksathikan.

Sueksa Sunkang [1964] *Laksut Kanson San Pathom Sueksa*（小学校カリキュラム）Sam Neua: Phanaek Sueksa Sunkang.

Utama Chulamani [1969] “Sadet Chao Suphanuvong kap Viakngan Sueksa,”（スパヌウォン殿下と教育）in Lao Hak Sat, *Sadet Chao Suphanuvong Mannyuen*, Sam Neua: Samnak Phim Chamnai Lao Hak Sat, pp. 21-28.

法律

Kasuang Sueksathikan [2008] *Kotmai Vaduai Kan Sueksa haeng Sathalanat*

Pasatipathai Pasason Lao (Sabap Pappung)（ラオス人民民主共和国教育法（改訂版））Vientiane: PESL.

教科書

＜ラオス愛国戦線＞

Hong Kan Sueksa Sunkang Naeo Lao Hak Sat (NLHS)[1969] *Khunsombat P1* (道徳小学１年)Sam Neua: Hong Phim Sunkang Naeo Lao Hak Sat.

———[1970a] *Khunsombat Hong P2* (道徳小学２年) Sam Neua: Hong Phim Sunkang Naeo Lao Hak Sat.

———[1971a] *Khunsombat Hong P3* (道徳小学３年) Sam Neua: Hong Phim Sunkang Naeo Lao Hak Sat.

———[1970b] *Khunsombat Hong P4* (道徳小学４年) Sam Neua: Hong Phim Sunkang Naeo Lao Hak Sat.

———[1972] *Khunsombat Hong P4* (道徳小学５年) Sam Neua: Hong Phim Sunkang Naeo Lao Hak Sat.

———[1971b] *Khunsombat Matthanyom1* (道徳中学１年) Sam Neua: Hong Phim Sunkang Naeo Lao Hak Sat.

———[1971c] *Khunsombat Matthanyom2* (道徳中学２年) Sam Neua: Hong Phim Sunkang Naeo Lao Hak Sat.

＜ラオス人民民主共和国＞

Kasuang Sueksa, Kila lae Thammakan(KSKT) [1978a] *Khunsombat Hong Kiam*(道徳準備学級) Soviet Union.

———[1978b] *Khunsombat San Pathom Pithi1* (道徳小学１年) Soviet Union.

———[1979a] *Khunsombat San Pathom Pithi4* (道徳小学４年) Soviet Union.

———[1979b] *Khunsombat San Pathom Pithi5* (道徳小学５年) Soviet Union.

———[1976] *Khunsombat Saman Sueksa Matthanyom1* (道徳中学１年) Vientiane: Hong Phim Kasuang Sueksa, Kila lae Thammakan.

———[1977] *Khunsombat Matthanyom2* (道徳中学２年) Vientiane: Hong Phim Kasuang Sueksa, Kila lae Thammakan.

———[1979c] *Visa Kanmueang Udom1*（政治高校１年）Vientiane.

———[1979d] *Visa Kanmueang Udom2*（政治高校２年）Vientiane.

———[1979e] *Visa Kanmueang Udom3*（政治高校３年） Vientiane.

———[198?a] *Khunsombat San Pathom Pithi4* （道徳小学４年) Vientiane: Visahakit Kan Phim Chamnai Sueksa.

———[198?b] *Khunsombat San Pathom Pithi5* (道徳小学４年) Vientiane: Visahakit

Kan Phim Chamnai Sueksa.
Sathaban Khonkhva Vithanyasat Kan Sueksa (SVS)[1997a]. *Baep Hian Lok Omtua khong Hao San Pathom Pithi Si* (私たちの周りの世界小学４年)Vientiane. Visahakit Hong Phim Sueksa.
――― [1997b] *Baep Hian Lok Omtua khong Hao San Pathom Pithi Ha* (私たちの周りの世界小学５年) Vientiane. Visahakit Hong Phim Sueksa.
―――[1997c] *Khumue Khu Lok Omtua khong Hao San Pathom Pithi 4* (私たちの周りの世界小学 4 年教師手引き) Vientiane. Visahakit Hongphim Sueksa.
―――[1996a] *Baep Hian Vithanyasat Sangkhom San Matthanyom Pithi 1* (社会科学中学１年) Vientiane. Visahakit Hongphimm Sueksa.
―――[1996b] *Khumue Khu Vithanyasat Sangkhom Matthanyom Pithi 1* (社会科学中学１年教師手引き) Vientiane. Visahakit Hongphimm Sueksa.
―――[2007a] *Baephian Khunsombatsueksa lae Lok Omtua khong Hao San Pathom Pithi 1*(道徳と私たちのまわりの世界小学１年)Vientiane. Visahakit Hongphim Sueksa.
―――[2007b] *Khumue Khu Khunsombat San Pathom Pithi 1* (道徳小学１年教師用手引き書) Vietnam: Nhan Dan Printing House.
―――[2007c] *Baephian Khunsombatsueksa lae Lok Omtua khong Hao San Pathom Pithi 2*(道徳と私たちのまわりの世界小学２年)Vientiane. Visahakit Hongphim Sueksa.
―――[2007d] *Khumue Khu Khunsombat San Pathom Pithi 2*. Vietnam: Nhan Dan Printing House.
―――[2009a] *Baephian Khunsombatsueksa lae Lok Omtua khong Hao San Pathom Pithi 3* (道徳と私たちのまわりの世界小学 3 年) Bangkok. Eastern Public Co. Ltd.
―――[2009b] *Khumue Khu Khunsombat San Pathom Pithi 3* (道徳小学３年教師用手引き書) Bangkok. Eastern Public Co. Ltd.
―――[2009c] *Baephian Khunsombatsueksa lae Lok Omtua khong Hao San Pathom Pithi 4* (道徳と私たちのまわりの世界小学４年) Bangkok. Eastern Public Co. Ltd.
―――[2009d] *Khumue Khu Khunsombat San Pathom Pithi 4*(道徳小学４年教師用手引き書) Bangkok. Eastern Public Co. Ltd.